

医歯薬学総合研究科医歯科学専攻（修士課程） 教育の方針

教育の基本的目標

大学院医歯薬学総合研究科は、以下の5つの教育の基本的目標を掲げます。

- 1) 社会的ニーズを把握し、地域から国際社会まで貢献する医療・研究・教育分野を構築する
- 2) 医・歯・薬学の専門的知識を結集した学際的研究・教育を推進する
- 3) 世界をリードする先端的・独創的研究を推進し、研究成果を発信する
- 4) 高度で幅広い知識を教授し、科学の進歩に適応しうる問題解決能力を涵養する
- 5) 社会人に再教育の場を提供して、生涯医療教育を推進する

養成する人材像

医歯科学の先端的な研究及び医療の推進や、地域の諸課題解決に貢献し得る先駆者

大学院医歯薬学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）は、国際社会において高く評価されると共に地域社会において広く活用される研究成果の創出を基礎として、次のような人材を養成します。大学・学部を問わず自然科学及び応用科学等の多様な専門性を身につけた学生に対しては、医歯科学の先端的な研究及び医療の推進に貢献し得る人材を養成する。医療の実務経験を通して専門性が培われた社会人に対しては、リサーチマインドを有する保健・医療・福祉従事者、公務員などとして地域に貢献する人材を養成します。

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 実践的な問題を解決できる実践力
- 自律的に探究を推進する探究力
- 成果創出に活かせるコミュニケーション力
- 知の創成につながる幅広い専門力
- 人間性に富み国際的に通用する教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

大学院医歯薬学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）は、医学・歯学の領域で、教育研究、先進的医療の中核拠点として、我が国及び地域に貢献する融合型の医療系大学院です。修士課程では、医歯科学の先端的な研究及び医療の推進に貢献し得る人材、及びリサーチマインドを有する保健・医療・福祉従事者、公務員などとして地域に貢献する人材を養成しています。そのため、次のような実践力、探究力、コミュニケーション力、専門力、教養力を身につけることを求めています。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】実践的な問題を解決できる力

グローバル化に対応した国際感覚を有し、自己の専門分野をもって社会をリードする行動を取り、日々発生する身近な課題と向き合い、解決に向けて行動し、持続可能な社会の実現に向けた新たな枠組みを構築することができる。

【探究力】自律的に探究を推進する力

自己実現に向けて、生涯に亘り医学・歯学の発展に寄与する高い学習意欲を持ち、基礎から社会実証研究に至る諸相で、長期的・短期的課題を見出し、研鑽を積むことができる。

【コミュニケーション力】成果創出に活かせるコミュニケーション力

幅広い学術研究領域の情報を自ら収集・分析し、適切に発信できることに加え、適切な方向性を示唆することができる。

【専門力】知の創成につながる幅広い専門力

医学・歯学に関する幅広い専門知識と技能、態度及び課題に対してアプローチする能力を身につけて社会に貢献できる。

【教養力】人間性に富み国際的に通用する教養

広い学識を習得し、学術的問題を見出すとともに、その問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

① 医歯科学学位プログラムのディグリー・ポリシー

医歯科学学位プログラムでは、学部で学んだ専門領域と本専攻で学ぶ医歯科学領域の複眼的視点で社会の課題を解決して自立・自己実現できる人材を養成します。例えば、保健・医療・福祉関連企業で研究・開発・生産管理・技術営業に従事する高度専門職業人、高度で知的な素養を持つ公務員や中等教育教員、研究者や大学教員を目指す博士課程進学者などを想定しています。

次の2つの要件を満たした者に、修士（医科学）、修士（歯科学）又は修士（学術）の学位を授与します。

コースワークとリサーチワークにより実践力、探究力、コミュニケーション力、専門力、教養力を習得し、その学修成果を所定の単位として取得することが必要です。また、リサーチワークの成果を学生自身が学位論文としてまとめ、公開の場で発表・討論することにより、自らの論理的思考力、研究遂行能力、説得力が所定の水準を満たしていることを能動的に示すことが必要です。

② 公衆衛生学学位プログラムのディグリー・ポリシー

公衆衛生学学位プログラムでは、学部教育または社会人としての実務経験を通して培った専門性に加えて、実学としての公衆衛生学5分野を広く深く学修し、公衆衛生学のリサーチマインドを有する保健・医療・歯科保健・福祉従事者、行政職、企業研究者等を養成します。

次の2つの要件を満たした者に、修士（公衆衛生学）、または修士（学術）の学位を授与します。

コースワークとリサーチワークにより教養、専門性、情報力、行動力を習得し、その学修成果を所定の単位として取得することが必要です。また、リサーチワークの成果を学生自身が学位論文としてまとめ、公開の場で発表・討論することにより、自らの論理的思考力、研究遂行能力、説得力が所定の水準を満たしていることを能動的に示すことが必要です。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、大学院医歯薬学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を各学位プログラムにおいて提供します。なお、大学院医歯薬学総合研究科 医歯科学専攻（修士課程）では、学務委員会を中心として、継続的な教育方法の改善に取り組んでいます。

大学院医歯薬学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）に掲げる卓越した修士人材を養成して、地域から国際社会まで広く貢献するため、学位プログラムとして、医歯科学学位プログラムと公衆衛生学学位プログラムを設置しています。それぞれのプログラムにコースワークとリサーチワークを設定しています。

① 医歯科学学位プログラムのカリキュラム・ポリシー

社会人、留学生にも対応した次のような教育課程を順次履修することで、ディグリー・ポリシーで定めた能力を円滑に獲得します。

コースワークでは、まず大学院レベルの教養科目としての共通科目「医歯科学概論」や「社会医歯科学」を学びます。さらに専門科目として人体の正常な構造と機能、病気の成り立ち、病気の診断と治療、人間集団と保健・医療・福祉、研究倫理などについて、順次集中的に学びます。さらに学年進行に伴い、キャリア支援特別講義の受講に加え、OB・OG フォーラムや製薬企業研究会等の学生支援イベントに参加して、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培います。

リサーチワークは、研究の情報収集・計画立案・実施・記録を行う実習科目と、研究目的・方法・結果を論理的に発表・討論する演習科目で構成されています。併せて、国際学

会での成果発表を推奨する授業科目を設定しています。これらの科目では、能動的な情報力、行動力、国際性を涵養します。また、学生は年度毎に指導教員と年間の研究計画について討議し、研究指導計画を作成します。これを指標として年間のリサーチワークを進めます。2年間を通じて、指導教授、教育研究分野のその他の教員及び専門性に応じて異分野の教員を含む複数指導体制の下で修士論文研究を行います。このリサーチワークを通して、批判的思考力や創造性、課題解決能力を獲得します。

② 公衆衛生学学位プログラムのカリキュラム・ポリシー

学部または社会人としての実務経験を通して培った知識・技能・態度に加え、修士課程で公衆衛生学を多面的に深く学ぶことでディグリー・ポリシーで定めた能力を円滑に獲得できるよう、教育課程を編成しています。

コースワークでは、まず大学院レベルの教養教育科目として共通科目「医歯科学概論」や「社会医歯科学」を学びます。さらに1年次では公衆衛生大学院の国際標準である疫学、生物統計学、環境保健学、社会科学・行動科学方法論、及び保健医療管理学の必須5分野を含む科目を履修します。これらの学修により、医歯科学の教養を身に付け公衆衛生学の専門性を習得します。2年次では1年次の学習を発展させて修士論文研究を実施・完遂することを目指します。

リサーチワークは、研究の情報収集・計画立案・実施・記録を行い、その後自ら研究目的・方法・結果を論理的に発表・討論する演習科目で構成されています。併せて、国際学会での成果発表を推奨する授業科目を設定しています。これらの科目では、能動的な情報力、行動力、国際性を涵養します。また、学生は年度毎に指導教員と年間の研究計画について討議し、研究指導計画を作成します。これを指標として年間のリサーチワークを進めます。2年間を通じて、指導教授、教育研究分野のその他の教員及び専門性に応じて異分野の教員を含む複数指導体制の下で修士論文研究を行います。このリサーチワークを通して、批判的思考力や創造性、課題解決能力の醸成を図ります。

成績評価

講義科目では主に総括的評価、実習科目及び演習科目では主に形成的評価を行います。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

大学院医歯薬学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）では、医歯科学学位プログラムと公衆衛生学学位プログラムを設置し、それぞれ次のような学生を求めています。

① 医歯科学学位プログラムのアドミッション・ポリシー

複眼的視点を持つ高度人材を育成するため、文系・理系を含め学部の専門分野は問いません。

- ・出身学部の専門性に応じて、学士に相応しい知識・技能・態度を習得している学生を求めています。
- ・学部の専門性に加えて医歯科学を修めることで、ディグリー・ポリシーが想定する高度人材として世に出る強い意思を有する学生を求めています。
- ・実学としての医歯科学を学び、自らの手で粘り強く先端研究を行って知識・技能・態度を総合的に習得する能力を持つ学生を求めています。
- ・知識・技能・態度の習得や自立・自己実現のため、周囲との信頼関係を醸成できる学生を求めています。
- ・さらに、自立・自己実現には学際性や国際性が必須となった時代背景を理解し、実践できる学生を求めています。

② 公衆衛生学学位プログラムのアドミッション・ポリシー

リサーチマインドを持って地域に貢献する保健・医療・歯科保健・福祉従事者を育成するため、原則として医療分野のバックグラウンドを持つ方を求めています。

- ・医療関連学部で習得した専門知識、また医療分野で実務経験を有する方を求めています。
- ・さらに本修士課程で公衆衛生学を修めることで、ディグリー・ポリシーが想定する高度人材として世に出る強い意思を有する学生を求めています。
- ・実学としての公衆衛生学を学び、自らの手で粘り強く先端研究を行って知識・技能・態度を総合的に習得する能力を持つ学生を求めています。
- ・知識・技能・態度の習得や自立・自己実現のため、周囲との信頼関係を醸成できる学生を求めています。
- ・さらに、自立・自己実現には学際性や国際性が必須となった時代背景を理解し、実践できる学生を求めています。

入学者選抜の基本方針

入学者選抜試験を毎年夏と冬の2回実施し、合格者は4月に入学します。

日本人志願者等

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、医歯科学分野の平易な英語課題により、語学力のみならず、学士レベルの教養、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。口述試験では、キャリアプランの具体性、志望度、学部で習得した専門性、人間的信頼性などについて志望分野の教員が口頭試問により評価します。

外国人志願者等

面接試験、筆記試験と口述試験を課しています。面接試験では、学部で習得した専門性、キャリアプラン、就学の前提となる異文化適応状況と経済状況などについて、複数の教員が多面的に確認します。筆記試験では、英語課題または日本語課題から1カ国語を選択し、論理構造の理解力、解答の執筆能力等を総合的に評価します。口述試験は、日本人志願者等の場合と同様に評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
日本人志願者等	☆	口述試験(専門科目)	◎	英語	☆	口述試験(専門科目)
外国人志願者等	☆	面接 日本語又は英語の外部 検定試験の成績 口述試験(専門科目)	◎	英語又は日本語	☆	面接 口述試験(専門科目)

(注) ◎は特に重視する要素、☆は総合的な判断となる要素
各要素に関する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合はある。

入学前に学習しておくことが期待される内容

英語力の向上を目指されることを期待します。関連分野で求められる専門領域の知識・技能の向上を目指してください。研究を円滑に推進していくには、合格後にさらに専門知識を深めておくことが必要です。